

保育者が行事・イベントに感じているやりがいと負担

筑波大学医学医療系 徳田 克己

筑波大学医学医療系 水野 智美

I. はじめに

これまで、保育者の職務満足、やりがい、負担感、ストレス、疲労などに関する多くの研究が行われてきている（例えば、金城, 2017; 宇佐美・西・高尾, 2015; 宇佐美・高橋・西, 2015 など）。近年では、保護者の対応に負担を感じている保育者が増えており、離職の原因にもなっている。また、それに関する保育者向けのアドバイス本が多く出版されている（西館・徳田, 2011, 2014; 水野・徳田, 2015 など）。

筑波大学発ベンチャー企業である子ども支援研究所では、保育上の悩みのある保育者からの相談を常時、受けている。年に 1000 件以上の相談がある。そのなかで、多くの保育者は「子どもの保育はやりがいがある楽しい」と語るが、同時に「園の行事やイベントは自分の保育者としての力が試されるときであり、大きな負担を感じる」と言っている。

本研究では、園の行事やイベントの中で、具体的に、どのようなイベントや行事にやりがいを感じ、また負担を感じているか、やりがいと負担感には保育歴による差があるか、それらに幼稚園教諭と保育所保育士では差があるか、やりがいと負担感はどのような関係にあるかなどについて分析した結果を報告したい。

II. 方法

1. 調査対象者

北海道、茨城県、沖縄県で開催された保育者を対象にした研修会に参加した保育者のうち 257 名から有効なデータを得た。勤務先は幼稚園

園 139 名（公立 10 名、私立 129 名）、保育所 78 名（公立 32 名、私立 46 名）、その他（子ども園など）40 名（公立 8 名、私立 32 名）であった。保育歴は 5 年以下 118 名、6~10 年 53 名、11 年以上 86 名であった。

2. 調査手続き

研修会開始時に自記式無記名式の質問紙を配布し、研修会終了後に留置法によって回収した。

調査時期は、2016 年 7 月~9 月であった。

3. 質問項目

調査対象者の所属、保育歴（保育者になって何年目か）を尋ねた。また 18 の行事やイベントについて、どの程度やりがいを感じているか、またどの程度負担を感じているかについて、5 段階のリッカート式による尺度を用いて尋ねた。

4. 倫理的配慮

質問紙調査の目的や方法を十分に説明した上で、本研究は無記名式質問紙調査であり、研究実施者が回答者を特定することはできないこと、回答・提出しなくても何の不利益もないこと、回答しにくい項目がある場合には回答しなくて良いことを十分に説明した。また、今回の質問紙調査の結果のまとめに関しては、日本乳幼児教育学会においてポスター発表を行い、さらに研究会誌「実践人間学」に投稿する予定であることを説明した。

III. 結果と考察

表 1 に、18 の行事・イベントのそれぞれのやりがいと負担感の数値を示した。数値の範囲は 1~5 であり、5 に近いほど「やりがいがある」

「負担がある」と感じていることを示している。また、「～5、6～10、11～」は保育歴が5年以下、6～10年、11年以上であることを示している。さらに、「幼」「保」はそれぞれ、幼稚園勤務の者、保育所勤務の者を示している。相関値は、やりがいの値（全体）と負担の値（全体）のスピアマンの相関係数の値である。

1. やりがい

表1をみると、保育者は運動会、発表会、卒園式の当日にやりがいを強く感じていることがわかる。それらは準備が必要な行事であり、子どもたちと、また他の保育者たちと一緒に努力をしてきた成果の披露の場である。それぞれの練習についても、保育者はやりがいを強く感じていることが表1から確認できる。

お泊り保育の数値も高いが、これも保育者のていねいな準備が必要な行事である。運動会、発表会、お泊り保育は子どもの成長を保育者が実感できる機会であり、卒園式はその集大成の日でもある。

それに比べて、豆まきやひな祭りといった伝統的な行事に、保育者はあまりやりがいを感じていないことがわかる。子どもや保育者が「がんばる」行事ではないことがやりがいを感ぜない理由であろう。また、これらの行事では子どもががんばって成果を示すこともないので、このような結果になったのであろう。

2. 負担

負担を強く感じる行事・イベントとして、発表会の練習、運動会の練習、発表会の当日、お泊り保育、運動会の当日、保育参観、個人面談、夏祭り、豆まきが挙げられた。発表会や運動会の練習は子どもの様子を見ながら、しかし当日うまくいくように何度も練習をすることになる。思うように練習が進まないことに悩み、負担を感じる保育者は多い。

発表会や運動会の当日は、保育者は緊張の連続である。子どもの成長を確認し、やりがいを感ぜる一方で、失敗しないように進める負担は

想像に難くない。

お泊り保育では、子どものけがや病気が心配になる。服薬・塗り薬の管理やアレルギー対策などが長い時間続くことになる。さらに、子どものホームシック、発熱、夜泣き、夜驚、夜尿などへの対応、心配症の保護者からの問い合わせへの対応など、睡眠不足になることも珍しくなく、身体的な負担が大きい。

保育参観、個人面談、夏祭りでは保護者との接点がある。保護者対応を苦手になっている保育者には負担が大きい行事である。

やりがいをあまり感じないという結果になった豆まきは保育者が負担を強く感じる行事でもあることが確認できた。鬼に泣き叫ぶ子どもたちをなだめ、子どもたちに豆をまかせるのであるが、実は、豆まきは事故の多い行事であることが私たちの相談活動の中で確認されている。豆まきの際に、大豆をまく園と落花生をまく園があるが、どちらにしても食物アレルギーの誤食事故の原因になる。また、子どもが自分の鼻や耳の穴に豆を入れたり、隣の子どもの耳の穴に入れたりする事故が発生している。保育者が気を抜けない行事であり、事故を懸念して豆をまくことをやめた園もある。

3. やりがいと負担の関係

表1の相関値をみると、やりがいと負担の間に高い相関関係を示している行事・イベントはなく、やりがいが大きくなるにつれて負担が大きくなる傾向があるものはあまりないと言える。あえて言えば、卒園式の当日が $R=0.244$ 、お泊り保育が $R=0.203$ であり、かなり弱い相関関係があった。この2つの行事は「負担はあるが、やりがいもある」ものである。

4. 保育歴との関係

夏祭りにやりがいを感ぜる程度は、保育歴が長くなるにつれて弱まっていくことがわかった。若い保育者は自分自身もお祭りに対してワクワクし、子どもと一緒に楽しむ傾向があるのであろうが、ベテランになるにつれ、準備や後片付

表 1. 園の行事・イベントにおける、保育者の感じるやりがいと負担

行事・イベント	やりがい 全体	負担 全体	相関値	やりがい			負担			やりがい		負担	
				~5	6~10	11~	~5	6~10	11~	幼	保	幼	保
運動会当日	4.6	3.8	0.042	4.6	4.6	4.5	4.1	3.7	3.6	4.6	4.4	3.9	3.8
発表会当日	4.6	3.9	0.066	4.6	4.6	4.5	4.1	3.8	3.7	4.6	4.5	4.0	3.7
卒園式当日	4.5	3.5	0.244	4.6	4.3	4.4	3.7	3.3	3.3	4.6	4.4	3.6	3.4
お泊り保育	4.3	3.9	0.203	4.3	4.4	4.2	3.9	4.1	3.6	4.4	4.0	3.9	3.8
発表会練習	4.2	4.1	0.089	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	3.9	4.1	4.2	4.2	4.0
園外保育	4.0	3.0	0.036	4.0	4.0	3.9	3.2	2.8	3.0	4.1	3.9	3.2	2.9
運動会準備	4.0	4.1	0.012	4.2	3.8	4.0	4.3	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1
卒園式練習	4.0	3.4	0.147	4.1	3.8	3.9	3.6	3.3	3.3	4.0	4.1	3.5	3.5
保育参観	3.9	3.6	0.147	4.0	3.7	3.8	3.8	3.4	3.3	3.8	3.9	3.6	3.4
夏祭り	3.9	3.6	0.017	4.1	3.9	3.7	3.6	3.5	3.7	3.8	3.8	3.5	3.6
誕生日会	3.8	2.9	-0.101	3.8	3.6	3.7	3.2	2.7	2.7	3.7	3.8	3.0	2.8
親子遠足	3.8	3.3	0.021	4.0	3.6	3.7	3.5	3.2	3.0	3.9	3.8	3.4	3.1
個人面談	3.8	3.6	0.116	3.9	3.6	3.8	3.6	3.5	3.5	3.8	3.8	3.6	3.5
入園式	3.7	2.8	0.182	3.8	3.5	3.6	3.2	2.6	2.5	3.8	3.6	2.9	2.5
避難訓練	3.5	2.4	0.079	3.6	3.4	3.3	2.5	2.3	2.3	3.6	3.4	2.6	2.2
ひな祭り	3.4	2.6	0.129	3.5	3.5	3.3	2.7	2.6	2.5	3.3	3.5	2.6	2.8
豆まき	3.0	3.6	-0.005	3.1	3.0	2.8	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6	2.5	2.6
内科健診	3.0	1.9	0.095	3.1	2.9	2.9	2.0	2.0	1.8	2.9	3.1	2.1	1.7

数値が大きいほどやりがい、負担を強く感じている。

けの大変な行事の代表としてとらえていくのであろうか。

また、保育参観、親子遠足、入園式については、保育歴が長くなるにつれて、負担を感じる程度が弱まっていつている。これら3つの行事は保護者が参加するものである。若い保育者は保護者と顔を合わせる際に緊張し、また不安になることがある。しかし、それも慣れてくれば負担感が低減していくことが確認できた。

5. 幼稚園と保育所の比較

やりがいについては、幼稚園勤務の者と保育所勤務の者の間で目立った差異のある行事・イベントはなかった。負担感については、入園式、避難訓練、内科検診で、幼稚園勤務の者の方が

より大きな負担を感じている傾向があった（差が0.4ポイント以上の項目）。

IV. まとめ

18の行事やイベントについて、どの程度やりがい負担を感じているかを明らかにするための質問紙調査を行った。いくつかの特徴的な結果が得られたが、特に、豆まきに関してはやりがいそれほど大きくなく、しかし強い負担を感じている保育者が多いことが明らかになった。このまま「伝統的な行事であるから」という理由から、続けていくべきかどうかを議論する重要な資料を提供できたと考えている。

文献

金城悟 (2017) 労働安全衛生法に基づく厚生労働省ストレスチェックによる保育者のストレス構造, 東京家政大学博物館紀要, **22**, 91-101.
水野智美編著 徳田克己監修 (2015)『具体的な対応がわかる 気になる子の保護者への支援』, チャイルド本社.
西館有沙・徳田克己編著 (2011)『困った保護者への対応ガイドブック』, 福村出版.
西館有沙・徳田克己編著 (2014)『知らないとト

ラブルになる! 配慮の必要な保護者への支援』, 学研教育みらい.

宇佐美尋子・西智子・高尾公矢 (2015) 保育者のストレスに関する研究: 女性企業従業員との比較検討, 聖徳大学研究紀要, **26**, 1-7.
宇佐美尋子・高橋健一郎・西智子 (2015) 0, 1, 2 歳児担当保育者の疲労と子どもの安定一年齢別集団規模との関連一, 子ども家庭福祉学, **15**, 13-22.

Sense of Accomplishment and Burden Felt by Nursery Teachers at Events

In this research we analyzed what events at kindergartens and daycare center gives the sense of accomplishment and burden to nursery teachers, whether there is a difference in the sense of accomplishment and burden in their length of experience, and whether there is a difference between teachers at kindergartens and daycare centers, and the relationship between the sense of accomplishment and burden. We got a valid data from 257 nursery teachers who participated in the training meeting for nursery teachers. 139 teachers worked at kindergarten and 78 teachers worked at daycare center and 40 teachers worked at other places. At the beginning of the meeting, self-filling anonymous survey was distributed and collected via leaving method at the end of the meeting. As a result, nursery teachers feel a sense of accomplishment 1, on the day of sports day, performance, and graduation, and feel burden in 2, practice for sports day and performance, on the day of performance, sleepover, the day of sports day, Parents' Day, parent teacher conference, summer festival, and mamemaki, and they feel less burden as their length of experience is longer was 3, parents day, field trip with parents, and entrance ceremony. Also, teachers feel strong burden at mamemaki but feels little sense of accomplishment, so it suggests that weather they should continue this event should be discussed.